

県事研会報

第59号

平成12年7月15日

発行人 熊本県学校事務研究協議会会長 大跡 尚雄
編集代表 事務局長 藤川 英一

事務局 熊本市立桜木小学校内
〒861-2118熊本市花立2丁目23-1
096(368)6095 Fa 096(331)1514

<今回の主な内容>

故 野田裕一郎先生
追悼号

故 野田 裕一郎 先生を悼む



6月21日に砥用小学校の事務主任 野田裕一郎先生が50歳という若さで急逝されました。県事務研を代表し心から哀悼の意を表します。

野田先生は若い頃から組合活動に活躍され、八代では支部の専従書記長までされました。人から頼まれると断れず何でも背負い込む性格で、多くの人に信頼される人でした。

何でも「してみなければ分からない」とひょうひょうとして引き受けておられたと聞いています。

ただ、野球と酒が好きで、特にアルコールで肝臓を悪くされてからは度々入退院を繰り返しておられたようです。

野球は息子さんが球児でよく応援に行かれていたとか。

50歳という若さでこれからが先生の活躍を期待できるという時期に逝かれたことは誠に残念でたまりません。

奥様は八代郡の鏡町職員で文政小学校に勤務されていた同職の方であり、球児の息子さんはまだ高校生だったと聞いています。これから息子さんの進路を楽しみにしておられた時であり本当に残念だったことと思います。

医療が発達したといってもまだまだ病気を無くすことはできません。現代人はストレスや環境又本人の節制の差により様々な病気を生み若くして人生を終えることは、長寿世界の我が国でもどうすることもできないことなのでしょう。

野田先生、二十数年間大変お疲れさまでした。又、お世話になりました。今、教育改革が進められ事務職員にとって大きな岐路に立たされています。どうぞ天国から見守っていただき、私達が正しい選択ができるようお導きをお願いいたします。

安らかに眠りください。

合掌

熊本県学校事務研究協議会会長 大跡 尚雄

6月21日午前11時頃だったと思いますが、突然野田先生の訃報が届きました。「まさか」という思いと「だめだったのか」という思いが交錯しました。

実は一週間前に、先生のお見舞いに行くつもりで奥様にお話を伺ったところだったのです。その時には、一寸具合が悪くなっておられるけれど、治る見込みがあるというお話だったので、「では、もうしばらくたってから又連絡をします。」と言って電話を切ったのでした。きっと元氣になって復帰なさると思っておりましたので、入院中であつたとはいえ、まさかこんなに急に亡くなられるとは夢にも思いませんでした。

先生は昭和49年八代市立第七中学校を振り出しに、八代郡市約17年、芦北郡3年、その間3年間は県教組役員として活躍され、平成6年に宇城地区の豊田小学校へ赴任してこられました。平成11年度からは現在の砥用小学校に勤務されておりました。

事務職員として先生を存じ上げるようになったのは豊田小学校に赴任なさってからですが、いつも落ち着いた態度でどっしりと構えておられました。お酒が大好きで以前にも体を壊されて入院なさいましたが、その時に当時の事務職員会役員でお見舞いに伺ったら病院の外に出てこれ、にこにこ話される様子に人生を諦観されておられるなあと感じたことを覚えております。

また、私の息子の同級生である野田君が、実は先生のお子さんであつたことを知り、以前より親近感を抱くようになりました。今考えてみると、先生とはお子さんのことしか話さなかつた様な気さえしています。そして、そんな時には、思わず笑みがこぼれていましたね。きっと、二人のお子さんの行く末を楽しみになさっていたことでしょう。

先生ご自身、こんなに早く旅立たれるとは思われなかつたでしょう。私たち事務職員仲間も、もっと長くつきあえるものと思つていましたし、付き合っていくたかつたと思つています。残念でたまりません。

また、先生は残された家族のことが気がかりだつたのではないのでしょうか。

「先生、天国では好きなだけお酒を飲まれてください。でも、早く旅立たれた分しっかりとご家族のことを見守ってあげてください。」

心からご冥福をお祈り申し上げます。

宇城学校事務職員会会長 高橋 敏子

野田先生が、危篤という話を聞いたのは銀行で給料の袋詰めをしているときだった。6月21日。そして学校に帰ってきて配り終え、ほっと一服していると亡くなられたとの電話が入る。一カ月程前に見舞いに行ったときにはあれほど元気だったのに・・・。

水芦地区から豊田小学校を経て砥用小学校に去年来られ、砥用町は全員組合員でなんでも仕事やりやすいですねと話していた所だった。また砥用小に行くと、パソコンに向かっておられた姿が印象的に目に浮かぶ。これから少しずつ色々仕事面・アフターファイブほか習いたかったのに。ご冥福をお祈りいたします。

砥用町立励徳小学校 御船 秀信

裕二郎さん（裕一郎さんだが、私たちの間では裕二郎さんだった）とは、4年前城南町に赴任したときから、年の差を越えて、ゴルフ友達、飲み友達、仕事友達でした。町費事務が一番厳しい城南町で、お互いあ～だこ～だと言い合いながら、仕事していたというより、オンラインでつながっているのをいいことに、メールばかりしていました。それも、ゴルフ、飲みの計画を・・・。

飲みに行っては必ず「旅姿3人男」を歌い、パソコンのスクリーンセーバーにも歌詞を流していたくらい好きでした。

ここでは書き出せないくらい楽しい思い出ばかりが頭をよぎっています。

今年の4月後半か5月だったか、作事中に携帯電話が鳴り出してみると、病室から裕二郎さんでした。「あ～病院でケータイ使っちゃ×ですよ～」 「なーん。よかったい。」とたわいのない話で電話を切ったんですが、今思うと、何かのサインだったのかなぁと思います。その時に見舞いに行くべきだったと悔やんでしかたありません。何年後か宇城に戻ったとき、また一緒にゴルフ行こう！と約束していたのに・・・。本当に残念でなりません。

心よりご冥福をお祈りいたします。

人吉市立西瀬小学校 松本 緑

野田先生 天国で楽しくやっていますか。

6月21日9時30分に危篤と聞き心配していましたが、11時には訃報の知らせが入り信じがたいものがありました。5月中旬に見舞いに行ったときはとても元気でしたし、6月3日に電話をいただいたときも元気そうで、まさかこんなに早く旅立たれるとは思っていませんでした。

先生とは昨年の3月、一緒に鹿児島市出張に行ったとき、毎月の給料日に銀行でお会いしたとき、また学校にもよくお出でいただきいろんな話に花を咲かせたことが思い出されます。さりげない言葉に優しさを感じさせた先生でした。良き友人を亡くした悲しみは言葉では言い尽くせません。

以前から体調が悪いようで心配していましたが、今となっては悔やんでも悔やみ切れません。

野田先生、天国で大好きな酒をたくさん飲んで楽しく過ごしてください。

今はただ、ご冥福をお祈りするばかりです。

砥用町立砥用中学校 福田 實

もう20年近く前になるでしょうか。そのころ、私は球磨郡にあって、八代方面への異動を希望していました。その時に、いろいろと相談にのっていただいた方々の中に、野田さんがおられました。その後、八代に異動できましたが、当時の八代には、強烈な個性を發揮されておられる錚々たるメンバーがおられ、八代をリードされていました。そういう中において、いわゆるベテランと若手とのパイプ役、あるいは、まとめ役として、野田さんの細やかな心遣いにより、八代全体がまとまりのあるものになっていたと思います。今は無くなってしまいましたが、居酒屋の「喜楽館」でよく飲んだことが、懐かしく思い出されます。

また、私は鏡町の学校で、明るくて元気のよい野田さんのお連れ合いさんと同勤したことがあります。ご夫婦の仲がよく、また、お二人ともお酒が大好きということで、特にビールをよく飲まれたという話もお聞きしました。そして、かわいい服を着たお子さんの写真も見せていただきました。そのお子さんたちも、今ではたくましく成長されました。ただ、私も同じ年頃の子を持つ親として、これから、さらなる子の成長を楽しみにしているときに、先立つということは、さぞ心残りではなかったかと思うばかりです。

最後に、会葬のときに、焼香台に写真が飾ってありましたが、それは、野田さんの、気さくで人懐っこい、そして包容力のある性格を、よく表したものではなかったかと感じ入りました。そして、あまりにも早すぎた、急な旅立ちに、今まで受けた恩情に報いることができないことに、無念さがつのります。 合掌。

坂本村立深水小学校 田中 裕幸

野田さんと、初めて会った時、彼から名刺を見せてもらいました。その裏には、校務分掌表がびっしりと印刷してありました。丁度この頃は、八代地区で標準的校務分掌表に取り組んでいた時期であり、この人はすごい人なんだなと、感心した記憶があります。

事務職員について生き生きと話し、豪快に飲む様子を見て、自分と同じ歳だとはとても思えませんでした。組合関係では色々な役をして、事務研では鋭い意見を言われていましたね。

こよなく事務職員を愛していた貴方は、本当にお酒が大好きでしたね。でもそのお酒が命を縮めたことは誠に残念です。

同い年を亡くすことは悲しいことです。でも貴方の分まで真剣に事務職員の未来を考えていきたいと思います。

天国では、本当の意味の『おいしいお酒』を飲んでください。

心よりご冥福をお祈り致します。

東陽村立種山小学校 名島 弘和

野田先生のあまりにも早すぎた死を悼む言葉が、次々に寄せられました。一葉一葉に先生のご活躍ぶりやお人柄が偲ばれ、また語り尽くせない哀惜の念が込められていました。